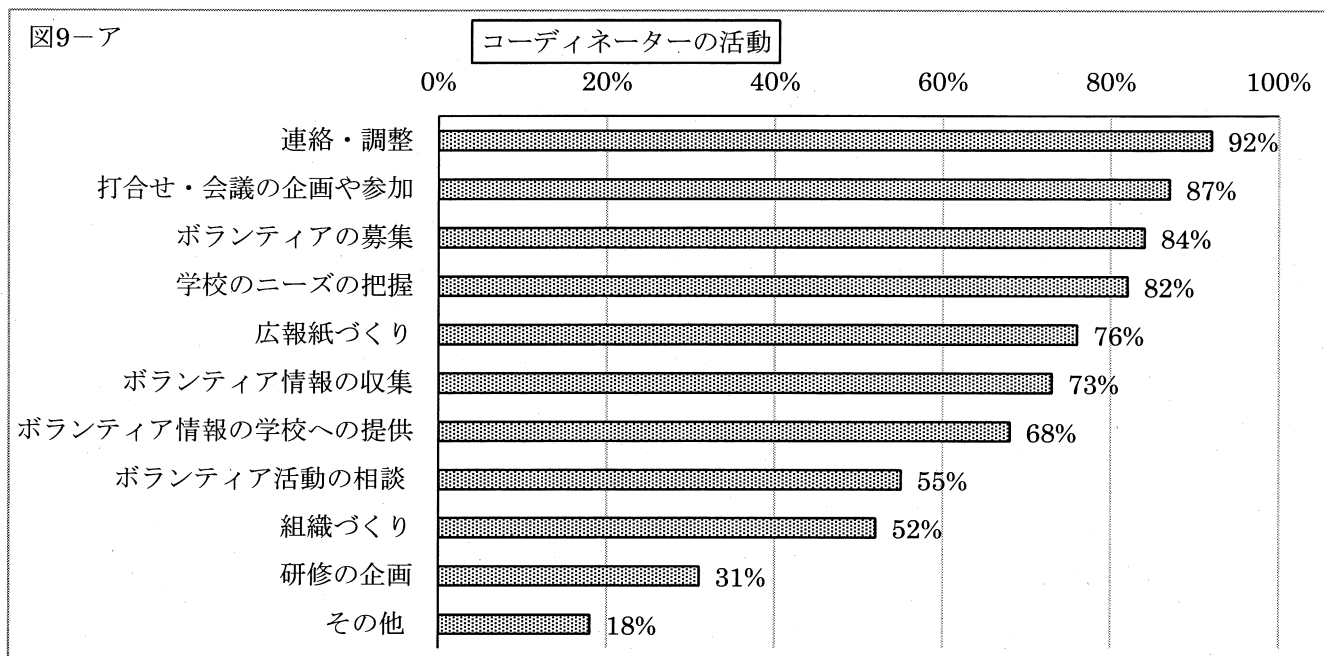


(9) コーディネーターの業務

ア 具体的な活動

具体的にどのような活動をしましたか。(あてはまるものすべて)

コーディネーター問1 (11)



「連絡・調整」が92%で最も多く、中心となる業務であったことが分かる。「打合せや会議の企画や参加」87%、「ボランティアの募集」84%、「学校のニーズ把握」82%と続く。

「広報紙作り」「ボランティアの募集」等、ボランティアとしての協力を積極的に働きかけたり、「学校のニーズの把握」「ボランティア情報の収集」「ボランティア情報の学校への提供」等、学校がボランティアによる活動を取り入れやすくなるよう努めたりと、事業の直接の推進役として活躍していた様子がうかがえる。

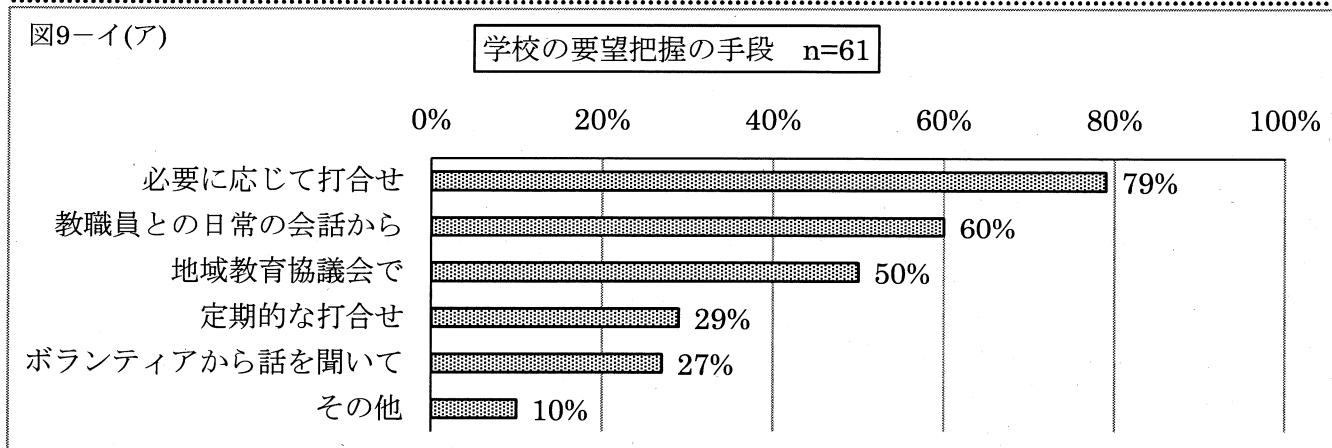
その他・・・講座の講師。地域イベント参加。

イ コーディネーターが要望を把握した手段

(ア) 学校の要望

学校の要望はどのように把握しましたか。(あてはまるものすべて)

コーディネーター問2 (1)



「必要に応じての打合せ」からが79%で最も多く。次いで「教職員との日常の会話から」が60%となっている。多忙な学校の中で、地域コーディネーターが教員とコミュニケーションを図ってよい人間関係作りに努め、効果的に時間を見つけて学校側の要望を把握していた様子がうかがえる。

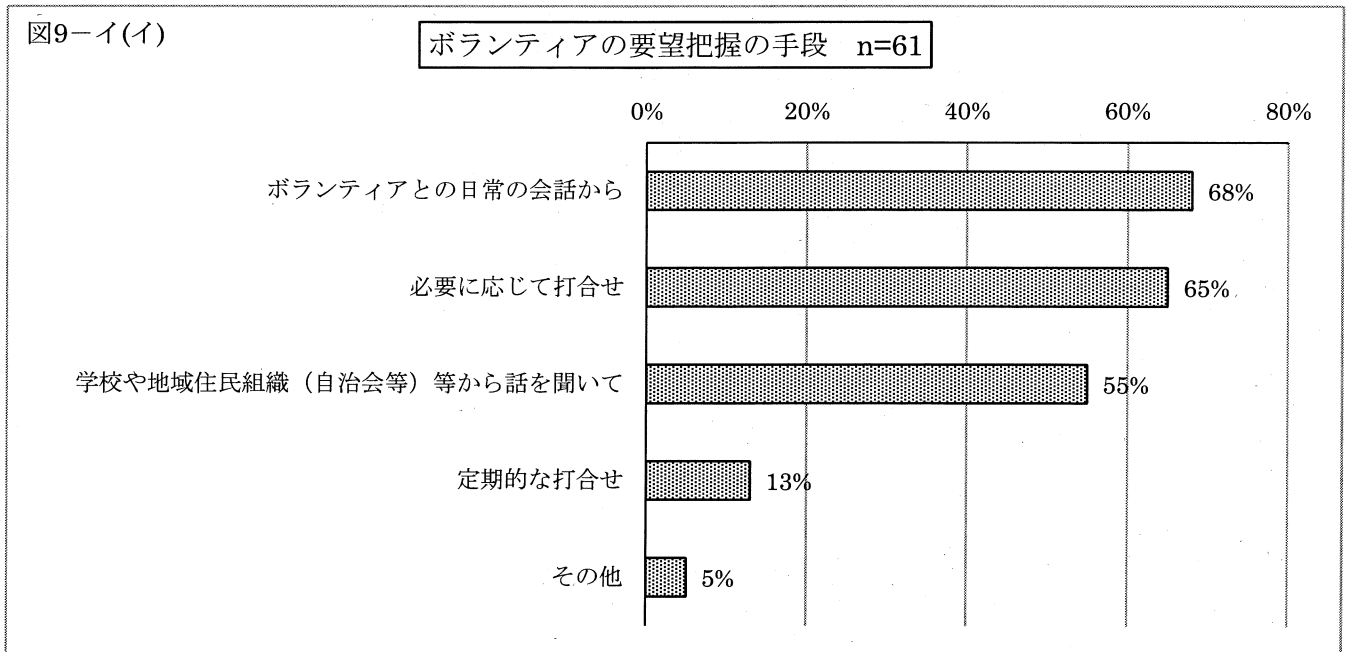
また、地域教育協議会で要望を把握したが50%と比較的高い割合を示していることから、協議会が情報交換の場としても機能していたことが分かる。

その他・・・コーディネーターから提案して許可を得た。アンケートを採った。現職教育で話し合った。

(イ) ボランティアの要望

ボランティアの要望はどのように把握しましたか。(あてはまるものすべて)

コーディネーター問2 (2)



「ボランティアとの日常の会話から」68%、「必要に応じて打合せ」65%、「学校や地域住民組織等から話を聞いて」55%と続く。地域コーディネーターがボランティアと積極的に交流しながら要望の把握に努めていたことが分かる。

その他・・・ボランティア活動に立ち会って。地域協議会で。ボランティアとの交流会で。